

### (3) 遺物展示会

#### 1) 特別展示 「金沢大学内の遺跡調査」

会期 平成14年3月25日から7月31日  
場所 金沢大学資料館展示室



埋蔵文化財調査センターが、キャンパス内でおこなった遺跡発掘調査により出土した遺物を展示した。資料館の新生用プログラムの一つとして、大学キャンパスの歴史を紹介する目的で、埋文資料展示の機会を得たものである。

資料館展示室に入ってすぐ右側の壁に沿って、埋文センターの遺物を12ケース並べた。展示ケース上の壁面には、多くの説明や写真のパネルを掲げた。

古代・中世の寺院及び関連施設と考えられる角間遺跡（総合移転第Ⅱ期工事地区）からは、特徴的な中国陶磁器と、須恵器・土師器などを出品し、縄文土器や弥生土器も展示した。

宝町遺跡（医学部及び附属病院地区、医学部保健学科地区）には、加賀藩与力町で後に医学校になった地区と、下屋敷で後に金沢監獄になった地区がある。まず与力町では、江戸時代から明治までの多様な生活道具が出土したが、中でも加賀藩の文化程度が想われる茶道と煎茶道の道具が多く発見されたことに注目させられる。また、一般的な肥前陶磁器とともに中国製や東南アジア製の陶磁器も使用されていたことがわかり、当時の国際的な商圈を知る重要な資料である。後の医学校・医学部時代には、生活道具ではない実験道具や医療用品が多く出土したため、遺跡の特殊性を強く出す展示となった。金沢監獄やその後の金沢刑務所では、給食用の食器や内部の工場で使用された品々を展示した。

会期中の入館者は例年より多く、埋蔵文化財調査センター展示コーナーも、学内外からの来館者に好評であったと資料館より報告があった。

#### 2) 継続展示

特別展示の会期は、最初平成14年4月26日までを予定していた。その後7月31日までの延期が決まった。来館者に好評であったとのことで、平成15年3月20日まで展示は継続された。

#### 3) 特別展示 大学構内遺跡出土の色絵

会期 平成15年3月31日から9月30日  
場所 金沢大学資料館展示室

平成15年度の特別展示として、出土陶磁器のうち色絵を集めて展示を行う。特に加賀藩で使用された九谷焼の実態はまだ不明であるため、さらなる研究をすすめる好資料と言える。多色の色絵は華やかであるとともに、手書きで描かれた一つ一つの絵から作者の人柄が偲ばれる。





金沢大学宝町遺跡出土